

# 第18回 ちゅうでん教育振興助成（平成30年度）

## 報告書資料 一般 - 14

学校名・団体名	新宿区立四谷小学校
コース	学校支援
活動・研究のテーマ	未来につなぐ四谷と干布のかけはし

### 〈活動・研究の意義および活動報告〉

#### 1. 実施計画に至るまでの経緯

本校は、それぞれが100年以上の歴史をもつ四谷第一小学校、四谷第三小学校、四谷第四小学校が統合して12年前に創立された学校である。3つの学校の伝統と特色を引き継ぐ形で、様々な教育活動が再構成されて教育課程が編成されている。その中の一つが、天童市の干布小学校との姉妹校交流であり、統合前の四谷第三小学校で昭和48年から学校間で独自に継続されてきた特色ある教育活動である。

現在、本校では、年間を通して1年生から6年生まで全学年で作品や手紙、ビデオの交換など様々な姉妹校の交流活動を実施しているが、最も象徴的なものが交歓行事である。新宿区内全校で通常実施されている5年生の2泊3日の女神湖宿泊体験、6年生の2泊3日の日光移動教室に加えて、6年生は夏季休業中の3泊4日の夏の交歓行事を通じて豊かな自然体験や人情味に溢れる交流、民泊やキャンプ等の行事を存分に体験する。また、3月には、本校児童が卒業旅行で東京を訪問する天童市立干布小学校の6年生を迎えての春の交歓会を実施している。

しかしながら、高齢化等社会情勢の変化に伴って交歓会を運営する人材確保が課題となっている。今年度より、本事業を活用して未来に向けて交流事業持続の基盤づくりを目指し若年層のボランティアの参加を進めている。

#### 2 活動時期および内容

##### ■ 1学期の交流

- ・各学年が進級後に、学校だよりとともに学年だよりや学級だより等の交歓を始める。
- ・学校行事や学習の様子、学年で取り組んでいる総合的な学習の内容などを作品にまとめて送付し交流する。

##### ■ 7月の夏の交歓会

1日目：歓迎会・キャンプ開会式 共同キャンプ体験Ⅰ（キャンプ体験指導講師・引率ボランティア）

初対面の相手児童と協力してキャンプ生活を営むことで緊張感も少しずつほぐれてきた。



開校式の様子



協力してテント設営



夕食のカレーづくり

2日目：野外活動（野外活動体験指導講師） 共同キャンプ体験Ⅱ（キャンプ体験指導講師・引率ボランティア）

鱒づかみやそうめん流し体験、キャンプファイアーでは、体験講師やボランティアが大活躍した。



自然の川でますづかみ



流しそうめん大会



盛り上がるキャンプファイアー

3日目：共同キャンプ閉会式・民泊交流開会式・民泊体験（引率ボランティア）

キャンプ場を離れ干布小学校で様々な交流活動を行った。

民泊体験は、児童にとって貴重な体験となった。



グループ 対抗でのスッパ割り



花笠音頭を両校で踊る



ホストファミリーと観光

4日目：地域観光（引率ボランティア）・お別れ会

四谷小に合わせて開園したひまわり迷路で遊び、閉校式を終えて東京に帰る新幹線で大きく手を振りました。



ひまわり迷路での集合写真



閉校式で立派な挨拶



見送りの人に手を振る児童

■ 2・3学期の交流

・運動会や学芸的行事に関する作品などの交流、パソコンやインターネット等を活用した交流活動



■ 3月の春の交歓会

- 1日目：歓迎会（四谷小学校金管バンド演奏等）・民泊体験①
- 2日目：東京都の社会科見学・観光・民泊体験②
- 3日目：学校での交流会・お別れ会



体育館での干布小歓迎会



金管バンドが演奏を披露



四谷小の校庭で交流ゲーム

3. 期待される成果

- 自然体験の少ない本校児童にとって貴重な自然体験になり、豊かな情操を養うことが期待できる。
- 7月のキャンプ体験や民泊体験と3月の民泊の受け入れなど2回の共同宿泊交流を通して、課題解決能力や人間関係形成力、郷土への愛着を育むことが期待できる。
- 学校の特徴ある教育として継続していくことで、姉妹校交流を中核とした総合的な学習の時間の系統的な展開など学校の教育課程の充実が期待できる。
- 少子高齢化が進む両地区において、地域・保護者・学校関係者が協働して交流事業に取り組むことを通して、地域の教育力の向上や地域の活性化にも影響を与えることが期待できる。
- 6年児童のみならず、保護者や地域協力者の相互の人間関係が深まり、地域間交流が継続するとともに、震災復興を進めている東北地方への保護者・地域の関心を継続していくことが期待できる。